容易・安価に空気弁設置

３D SEAL分水栓を活用

富田林市の水管橋で

富田林市上下水道部は、このほど、同市内の水道管敷設替え現場において、新型分水栓を活用して空気弁を設置した。新型分水栓は、ＹＯＮＥ（米田哲三社長）製の「３D SEAL分水栓」。既設管を穿孔してスリーブ・ゴム輪を挿入して拡径するだけで取付けることができ、T字管やサドル等の取付けが不要。施工時間や費用等の面で優れているという。

現場は、同市の五軒家受水場から金剛配水池に通じる送水管（呼び径400）と金剛配水池からの配水管が並行する2本の水管橋。川幅は5㍍弱であり、1本もののGX形ダクタイル鉄管を水管橋として活用することとした。

水管橋上部に空気弁を設置するにあたり、同市がＹＯＮＥと共同研究している「３D SEAL分水栓」を活用できないかと考え、同社と協議して採用を決めたという。

施工は、水管橋上部を穿孔し、分水栓のスリーブ・ゴム輪を拡径し設置。その上部に空気弁を設置してカバーを取り付けて終了。既設管の穿孔断面は、ゴム輪により管外面・穿孔断面・管内面の３方向から多面シールされる。分水栓の止水性能は、引抜き試験や曲げ試験等で確認されている。

同市上下水道部水道工務課の植田氏は「水管橋の前後や途中に継手やサドル等を設置せずに空気弁を取り付けることができ、施工期間や費用のほか、美観にも優れる現場となった。今後も適用できる現場があれば、採用を検討していきたい」と話している。

設置された空気弁（上）と施工現場（下）